

ひので映画大使最新版

[2016年5月27日]

第72回映画大使「海よりもまだ深く」

- ・ 期日 平成28年5月21日(土曜日) ※公開初日！
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

「そして父になる」「海街diary」の是枝裕和監督が、大人になりきれない甲斐性なしのダメ男と年老いた母を中心に、夢見ていた未来とは違う現在を生きる家族の姿を綴った家族ドラマ。

主人公の篠田良多には「歩いてても 歩いてても」「奇跡」に続き3度目の是枝作品出演となり、さまざまな役を演じ国民的俳優となった阿部寛が、良多を穏やかな眼差しで見つめる母役は樹木希林、良多の元妻に真木よう子が演じるほか、小林聡美、リリー・フランキーなど実力派キャストが担当している。

夢を追い続け妻に愛想を尽かされて息子と出ていかれた中年男が、ひょんなことから年老いた母の家で、別れた妻子と一晩を過ごす事となる。偶然取り戻した、束の間の『家族』のそれぞれの思いをほろ苦くも心にしみいるタッチで描き出す。



(C) 2016フジテレビジョン バンダイビジュアル AOI Pro. ギャガ

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ☆ 凄くいい映画でしたね！
- ☆ 子どもを思う親の気持ちがわかりましたね！
- ☆ 是枝監督らしい終わり方をしているなと思いました。
- ☆ 樹木希林さんの演技は自然体なのに凄く存在感がありますね！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

この作品を観て、親というものはこういうものなのかと考えさせられました。『水よりも血は濃い』と言われますが、親は何歳になっても親なのだとつくづく思いましたね。自分の家庭も同じなのだろうと思いましたし、いろいろあっても親は子どもを心配するものなのだろうと感じました。

親の引いたレールの上を子どもは進まないものだと感じ、今の人達は昔の人とは違うのだろうとも思いましたね。

とてもいい映画でした。

Bさん

この作品を観て母親と息子の関係につきまして、母親はどんな時も息子を思っているものだという事を印象深く感じました。母親が息子を思う気持ちは物凄く強く、息子が困っていると助けたいくなるのだという事を強く感じましたね。息子は母親の事を思っているように思っていないものだなとも感じました。

この作品は是枝監督らしい終わり方をしているなと思いましたね。

Cさん

私の近くにこの作品の主人公のような方がいまして、その方と主人公が重なりました。

樹木希林さんの演じられた母親の、自分の子どもが何歳になってもっと良くなるのではないかと、という期待を持ち続けていく気持ちは、よくわかりましたね。

Dさん

私は、樹木希林さんのファンなのですが、彼女の演技はいつも自然体でして、自然体で演技ができるという事は凄いなと思います。他の方達もその立場の役を上手に演じていると思いますが、やはり彼女の演技は特別だと思いますね。

どんな息子でも母親は可愛いもので、何もかも承知で見守っていてくれるものなのだなと思いました。

素晴らしい映画でしたね。

Eさん

私は年齢も近い事もありまして、真木よう子さんが演じる主人公の元妻の響子に共感を覚えましたね。

Fさん

私は、主人公と境遇が似ているなと思いながら観ていました。

Gさん

私は1年前に夫を亡くしましたが、この作品は、夫を亡くした妻や、父を亡くした子どもの気持ちがよく表現されていたと感じました。

私も自分の希望を叶えられなかったので、主人公の姿を見て自分の青春時代を思い出しました。その頃の私は親に迷惑をかけていたのではないかと感じていまして、樹木希林さんの言葉を聞いてその頃の親の気持ちがよくわかりましたね。親というのは、どんな子どもでも子どもは子どもなのだなと思いながら観ていましたね。

樹木希林さんが演じる母親の夫に対する気持ちや、家族を思う気持ちがよくわかりましたね。

Hさん

今回の作品の舞台は、監督が昔住んでいた清瀬市の団地だと聞いた事があります。

この作品の団地の日常生活は、まるで一昔前の生活がそのまま残っているようでしたが、今は時代が変わっていて、団地に活気があった昔であればだめなお父さんでも、子育てはお母さんががんばって何とか家族が成り立っていたのですが、今はそれだけではうまくいかずに離婚してしまい、だめなお父さんはだめなお父さんとされてしまうのだと思いましたね。

団地を舞台に今の時代の流れを描いているなと感じました。

Iさん

この作品は流れが凄く穏やかで、登場人物の優しさが感じられました。

それぞれの家庭や情勢がありふれた状態で、団地は若い頃から住み始めて、そのまま住み続けるうちに時間が経ち高齢化が進んでいき、近くのお店が閉まっているなど、私が住む地区に似ているなと感じ身につまされましたね。

樹木希林さんの演技は、自然体で『演技しているのかな』と思うほどですが、凄く存在感がありますね。

阿部寛さんが演じる主人公のような方は、世の中には沢山いると思いました。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・終わり方がいいですね！

- ・男性の考え方と女性の考え方の違いを感じました。
- ・親は子どもに期待をしてしまうものだなと思いましたね。
- ・今の若い年代の方の考え方は昔とは違いますね！
- ・親子の考え方というのは似てしまうものなのだなと思いました。
- ・多くの方に観てほしい作品ですね！

まとめ

この作品は、第69回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門出品作品で、ちょうど映画大使が行なわれた公開初日にも映画祭は開催されていました。(「ある視点」部門とは、革新的で大胆な作品を奨励すべく導入された部門となっています。)カンヌ映画祭は、作品への厳しい目を持った観客が多いと言われていて、上映中に観客が次々と席を立ってしまった事や上映後にブーイングが起こった事などがある中、この作品は上映後に長時間のスタンディングオベーションが起こり、新聞の評価でも、5点満点中4点をつけるところもあるなど、高い評価を受けています。そのような噂を聞いただけにどうしても期待が大きくなってしまいましたが、その期待を裏切る事の無い作品となっています。

内容は、淡々とした日々の生活を描いている作品でありながら、所々に笑いの要素もあり、人生を生きるうえでのヒントとなる台詞がいくつもちりばめられています。

また、その方の年齢や経験などにより、感じ方や感情移入をする人物が違っており、まさに年齢や性別の違う方が1つの映画について意見を出し合う映画大使に相応しい作品だといえます。映画大使の方の意見もさまざまであり、座談会では男女の考え方の違いについて話が盛り上がりました。

そして、大使の皆さんからお話が出ているとおり、樹木希林の演技がとても自然でありながら、凄い存在感である事を感じ、阿部寛との親子の演技がとても自然である事を感じました。

映画は是非、劇場の大スクリーンでご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をする事が出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)